

慶應義塾横浜初等部

【塾長】清家 篤

【初等部長】大森 正仁

〒225-0012 神奈川県横浜市青葉区あざみ野南3-1-3 TEL 045-507-8441(直通) <http://www.yokohama-e.keio.ac.jp/>

【交通】東急田園都市線 江田駅下車 徒歩約10分

「体験教育」「自己挑戦教育」「言葉の力の教育」を柱に、社会の先導者を養成

伝統の慶應義塾が新たに開校した初等部

慶應義塾は、安政5(1858)年の創立以来その形を次第に整え、明治31(1898)年、今日に至る一貫教育の制度を確立しました。

平成25(2013)年、横浜市青葉区の閑静な地に開校した横浜初等部では、自ら能動的に観察し考える「体験教育」、自分の得意なことに高い目標を定めて達成したり、苦手なことに積極的に取り組む「自己挑戦教育」、あらゆる思考の基盤となる読む力と書く力、他者との協働を可能にする聞く力と話す力など、言葉やコミュニケーションに関する能力を養成する「言葉の力の教育」を三つの柱に教育活動を展開。創立者である福澤諭吉の教育理念「独立自尊」の精神を体現した将来の社会の先導者を育てることを目指しています。

週6日制のゆとりある教育と実践的カリキュラム

週6日制を実施して十分な授業時間数を確保し、詰め込みや前倒しではない真のゆとりある授業を進めます。生徒にも教員にも十分に活用できる時間を与えながら、私学教育の使命である確かな学力の定着を図ります。低学年から音楽や図画工作、体育、英語などの教科に専科制を取り入れ、高学年(5・6年)からはすべての教科で教科担任制を実施する予定です。

また、言語技術教育を積極的に取り入れ、言葉の力を磨くと共に身の回りの具体的な事柄についてデータを基に考える統計教育にも力を入れていきます。

慶應義塾独自の科目●飼育、栽培、暮らし、食育、健康など、自分を取り巻く社会の仕組みや環境について学ぶ総合的な教科「生き方科」や、福澤諭吉の著作を題材とした学びをはじめ、慶應義塾の歴史や門下生の生き方を学んだり、身の回りの安全やいのち、情報モラルなど今日的な課題について仲間と話し合ったりする「福澤先生の時間」といった独自の科目を取り入れた、慶應義塾ならではの先導的な教育を行い、考える力や品格を養っていきます。

校外活動や年間行事で重層的な学習体験を提供

自立心を育む行事や校外活動●遠足や運動会、音楽会など、みんなで協力しながら楽しむ行事が充実しています。また校外活動にも力を入れており、特に学校を挙げて取り組む宿泊行事では、友達と共に規律ある共同生活を送ることによって、子どもたちの自立心、リーダーシップ、協力する心を養います。

危機管理能力を養成●大きな災害に備えて行う防災訓練や、異学年間で取り組むさまざまな行事を通して、危機管理意識や集団の中での個という感覚を育てます。

多様な体験プログラムで学習意欲を向上●学校生活の中心となる空間である図書館では、日本語や英語の児童書の読み聞かせをはじめ、音楽や美術、実験等の自由参加のプログラムを開き、生徒の好奇心を刺激します。確かな学力の基礎を築くと共に、スポーツ・芸術等を通じて、豊かな感性と個性を育みます。



沿革

安政5年、福澤諭吉が蘭学塾を創始。その後慶應4年(明治元年)に「慶應義塾」と命名。明治7年に幼稚舎、同23年に大学部を発足した。同31年には一貫教育制度を確立。その後も中等部の開校や高等学校および女子高等学校の発足、ニューヨーク学院の開校などを経て、平成25年に横浜初等部を開校した。

2016年度募集要項

募集人員：男子66名 女子42名

出願期間：10月5日(月)・10月6日(火)

(郵送のみ、消印有効)

選考日：[1次試験]11月9日(月)

[2次試験]11月18日(水)~21日(土)

※試験は期間中の1日のみです。

合格発表日：[1次試験]11月13日(金)

[2次試験]11月25日(水)

【かかる費用(2015年度参考)】

入学金：340,000円

授業料(年額)：940,000円

施設設備費(年額)：450,000円

教材費(年額)：20,000円

給食費(年額)：110,000円 など

データパック

◆15年度志願者数：男子650名/女子514名

◆合格者数：男子66名/女子42名

【併設校】

○慶應義塾幼稚舎

○慶應義塾普通部

○慶應義塾中等部

○慶應義塾湘南藤沢中等部・高等部

○慶應義塾高等学校

○慶應義塾志木高等学校

○慶應義塾女子高等学校

○慶應義塾ニューヨーク学院(高等部)

○慶應義塾大学・大学院

上級学校に進むには

一貫教育を実施しており、部長の推薦により湘南藤沢中・高等部に進学します。